

教科名	自立活動	学年	全学年
-----	------	----	-----

目 標	個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を養う。
学年の目標	1 学年：障害による困難を主体的に改善・克服するために、自分の課題を明確にする。 2 学年：障害による困難を主体的に改善・克服するために、自分の課題把握にする。 3 学年：障害による困難を主体的に改善・克服するために、自分の課題改善にする。

区分	目標の例	学習内容	評価の例
「健康の保持」	【学習内容の項目別目標例】 例 1) 栄養バランスを考えて給食の量を自分で調整することができる。 例 2) 睡眠不足による体調不良を起こさないために、毎日 7 時間以上の睡眠をとることができる。 例 3) 転ばないように足元を確認し、安全に歩行することができる。 例 4) 授業中に気持ちが不安定になった際に教師に相談し、時間を決めて別室で休養することができる。 例 5) 毎日 3 0 回スクワットをすることができる。	「健康の保持」 生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る。 (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること ⇒体温の調節，覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること，食事や排泄などの生活習慣の形成，衣服の調節，室温の調節や換気，感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図る。 (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること ⇒自分の病気の状態を理解し，その改善を図り，病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め，それに基づく生活の自己管理ができるようにする。 (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること ⇒病気や事故等による神経，筋，骨，皮膚等の身体各部の状態を理解し，その部位を適切に保護したり，症状の進行を防止したりできるようにする。 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること ⇒自己の障害にどのような特性があるのか理解し，それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め，その状況に応じて，自己の行動や感情を調整したり，他者に対して主体的に働きかけたりして，より学習や生活をしやすい環境にしていく。 (5)健康状態の維持・改善に関すること ⇒障害のため，運動量が少なくなったり，体力が低下したりすることを防ぐために，日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにする。 【保健体育：思春期と健康、持久走】 【家庭科：食生活】	(文章評価) 例 1) 足りない栄養バランスを考えて給食の量を調整することができた。 例 2) 就寝・起床時間を決めてその時間に寝ることを習慣づけることができた。また、睡眠不足もなくなり体調不良になる回数を減らすことができた。 例 3) 段差や道が悪いところでしっかり足元を確認することで転ぶことが減らすことができた。 例 4) 気持ちが不安定になった時に教師に自分の状況を伝えることができた。また、1 0 分間音楽を聴くことで気持ちを安定させることができた。 例 5) 毎日 3 0 回スクワットをすることで、以前より素早く行動することができた。
			評価方法：教育活動全般 (100%)
「心理的な安定」	【学習内容の項目別目標例】 例 1) 自分の気持ちや情緒をコントロールする方法を身に付けることができる。 例 2) 仲間の言動を見て、自分が何をしなければならぬかを把握することができる。 例 3) 自分の考えを紙に書き、教師に疑問や今の気持ちを伝えることができる。	「心理的な安定」 自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り，自己のよさに気付く。 (1)情緒の安定に関すること ⇒情緒の安定を図ることが困難な生徒が，安定した情緒の下で生活できるようにする。 (2)状況の理解と変化への適応に関すること ⇒場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり，変化する状況を理解して適切に対応したりするなど，行動の仕方を身に付ける。 (3)障害による学習上または生活上の困難を改善・克服に関すること ⇒自分の障害の状態を理解したり，受容したりして，主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る。 【保健体育：思春期と健康】 【LHR：自分を知ろう】	(文章評価) 例 1) 気持ちが不安定になった時に、廊下をゆっくり歩くことで気持ちを切り替えることができた。 例 2) 仲間の行動を見て、自分のやらなければならないことに気付くことができた。 例 3) ノートに 1 日の疑問や気持ちを書き込み、SHR の前に教師と内容を確認することができた。
			評価方法：教育活動全般 (100%)
「人間関係の形成」	【学習内容の項目別目標例】 例 1) 他者の言葉を丁寧な態度で最後までしっかり聞くことができる。 例 2) 他者の様々な意図や感情を、言葉や行動を見て予想することができる。 例 3) 仲間の話を聞いて簡単に文章にまとめることができる。	「人間関係の形成」 自他の理解を深め，対人関係を円滑にし，集団参加の基盤を培う。 (1)他者との関わりの基礎に関すること ⇒人に対する基本的な信頼感をもち，他者からの働き掛けを受け止め，それに応ずることができるようにする。 (2)他者の意図や感情の理解に関すること ⇒他者の意図や感情を理解し，場に応じた適切な行動をとることができるようにする。 (3)自己の理解と行動の調整に関すること ⇒自分の得意なことや不得意なこと，自分の行動の特徴などを理解し，集団の中で状況に応じた行動ができるようにする学習。 (4)集団への参加の基礎に関すること ⇒集団の雰囲気に合わせて，集団に参加するための手順やまわりを理解したりして，遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにする。	(文章評価) 例 1) 他者の話に対してしっかりと相手の顔を見ながら最後まで話をしっかり聞くことができた。 例 2) 他者の言動から相手の気持ちを予想して、適切な言葉掛けを行うことができた。 例 3) 複数の仲間の話を聞いて、全ての意見を 1 つの文章にまとめることができた。 例 4) 集団の中に参加する際に行っているゲームのルールや今の状況を確認して参加することができた。

	例４)集団に入る前に今の状況やどんな遊びをやっているかなどの質問することができる。	【国語：読む・話す・聞く】 【作業学習：報告・連絡・相談】	評価方法：教育活動全般(100%)
「環境の把握」	【学習内容の項目別目標例】 例１)しっかりと自分の周囲を確認しながら歩くことができる。 例２)自分の苦手な音や振動を把握することができる。 例３) i P a d を使い、授業に必要な道具を管理することができる。 例４)仲間と自分の意見を比較し、比較した結果を仲間と共有することができる。 例５)気温計を見て自分の暑い・寒いと感じる気温を把握することができる。	「環境の把握」 感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする。 (1)保有する感覚の活用に関すること ⇒保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにする。 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること ⇒障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにする (3)感覚の補助及び代行手段に関すること ⇒保有する感覚を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行為的確にできるようにしたりする。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と行動に関すること ⇒いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにする。 (5)認知や行動の手がかりとなる概念形成に関すること ⇒ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにする。 【作業学習：作業学習の基礎・基本】 【日常生活の指導：学校生活全般】	(文章評価) 例１)廊下を歩く際に周りをしっかりと確認することで人とぶつからずに目的の場所まで移動することができた。 例２)自分の苦手な音や振動を理解することができた。 例３)カレンダーの機能を使いその時間に必要な道具を管理し、忘れ物をしないようにすることができた。 例４)自分の意見を仲間に伝えることで深く物事を考えることができた。 例５)気温計を使い、気温の感覚を意識すること体温調節を自分で調整することができた。
			評価方法：教育活動全般(100%)
「身体の動き」	【学習内容の項目別目標例】 例１)正しい姿勢で１時間椅子に座り続けることができる。 例２)靴紐を結ぶ補助道具を使い一人で紐を結ぶことができる。 例３)ボタンを掛け違わないように１人で正しくＹシャツを着ることができる。 例４)正しい姿勢で歩行することができる。 例５)足や手の向き、姿勢を意識して気を付けをすることができる。	「身体の動き」 日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする。 (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること ⇒日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関すること。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること ⇒姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにする。 (3)日常生活に必要な基本動作に関すること ⇒食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び書字、描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにする。 (4)身体の移動機能に関すること ⇒自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図る。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること ⇒作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高める。 【理科：人体】 【保健体育：集団行動】	(文章評価) 例１)正しい姿勢の維持の仕方を知り、１日通して正しい姿勢で椅子に座り集中して授業を受けることができた。 例２)靴紐を結ぶ補助具を使うことで、一人で紐を結ぶことができた。 例３)全身鏡を使いながらＹシャツを掛け違わないようにボタンの位置を確認し、間違わずにボタンを掛けることができた。 例４)正しい姿勢の良いところを開き、背筋を伸ばししっかりと足を上げて歩くことを意識することができた。 例５)正しい気を付けの姿勢を理解することで、足や手の向きを意識して気を付けをすることができた。
			評価方法：教育活動全般(100%)
「コミュニケーション」	【学習内容の項目別目標例】 例１)他者の話を聞いている際に頷くような同意を示す行動を取ることができる。 例２)話したい意見を紙にまとめて整理してから相手に伝えることができる。 例３)自分の体験した出来事を文章にして説明することができる。 例４) i P a d を使い必要な情報を相手に伝えることができる。 例５)他者の言動を見て、その言動が何を表しているのかを考えることができる。	「コミュニケーション」 場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする。 (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること ⇒幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付ける。 (2)言語の受容と表出に関すること ⇒話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにする。 (3)言語の形成と活用に関すること ⇒コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにする。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること ⇒話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにする。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること ⇒コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにする。 【総合：ボランティア活動】 【ＬＨＲ：人との関わりについて】	(文章評価) 例１) 他者の話を聞く際に頷いたり、肯定することで相手と良い距離感で会話をすることができた。 例２) 自分の意見を紙に書いて考えを整理することで、わかりやすく相手に意見を伝えることができた。 例３) 交換ノートを使い、自分の体験したことを文章にすることで分かりやすい言葉を用いた説明をすることができた。 例４) Ｉ Ｐ Ａ Ｄ の文章作成ソフトを使い、相手にわかりやすく情報を伝えることができた。 例５) 他者の言動を教師と一緒に確認することで、仲間の性格や状況を理解することができた。また、相手の状況を考えて適切な言葉掛けを行うことができた。
			評価方法：教育活動全般(100%)